

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0170503486), 法人名 (株式会社 ゆうらく), 事業所名 (高齢者グループホーム「遊楽館」平岡), 所在地 (札幌市清田区平岡4条1丁目12-4), 自己評価作成日 (令和2年3月2日), 評価結果市町村受理日 (令和2年8月24日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=0170503486-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年7月28日 (令和元年度分))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様、ご家族様、職員間、業者や来訪された方などにも明るく笑顔で挨拶！
・職員間の関係が良い方だと思う。助け合って仕事ができるよう進めている。スキルアップや自己成長にも取り組んでいる。(成長シートを使い、毎月個人面談を行っている)
・入居者様、ご家族様、新職員が環境に馴染めるよう心配り。一人一人に対する心配り。
・事故発生時や要望などの迅速な対応、連絡体制。
・お庭(花壇・畑)。入居者様やご家族様、来訪された方が誰もが「素敵です」と言ってくださり、地域の方も見に来られ楽しんでいただいている。手入れや収穫は入居者様と職員で行い、食材に活かしている。
・おいしく温かい食事を提供するよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年目を迎える「遊楽館」平岡は、法人の事業趣意を根幹とする運営方針をケアサービスの主軸とし、確実に実践させる事に日々努力している事業所である。法人はキャリアパス制度を導入し、利用者へのより良いケアサービスを行うために、OJT(職場内訓練)を成長シートを用いて職員の精神的、技術的スキルアップに繋げ相乗効果を図るなど、常に進化を持って運営に取り組んでいる事が特徴の一つである。職員は積極的に研修に赴き、自己研鑽や学習を深め、チームとして利用者の暮らしのニーズや課題をきめ細かく検討し、本人らしく生きる事の支援に臨んでいる。現在はコロナ禍で外出を自粛しているが、例年は月1度の外出レクや事業所主催の夏祭りを実施しており、活花教室や職業体験の学生、元気っ子クラブの児童等の訪問もあり、地域の方やボランティアの方との出会いが利用者にとって程良い刺激を生み出し、人との会話を楽しむなど、地域に居場所を感じられるような場面作りに努め、交流を図っている。食事の面では、利用者の状態を考慮しつつ、彩りやバランスを考え、畑の野菜も取り入れて、出来立ての美味しさを味わって貰えるように腕を振るっている。協力医との連携も充実し、定期往診で適切な医療支援が実施され、訪問看護師は健康管理や医療面に於ける相談や対応等を行い、ターミナルケア体制も整備され、利用者、家族等の安心を高めている。事業所前に造られた美しい花壇や畑、玄関を入った途端感じるゆったりと温かな雰囲気は、利用者が安心して過ごせる場所として、職員の弛まぬ日々の努力が推察される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff performance metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆が見える所に掲示しているが、浸透していない職員もあり、皆で共有し実践できるよう努めていく。	運営方針を理念と掲げケアサービスの主軸とし、更に毎月事業所目標を掲げ毎朝唱和する事で、意識化、共有化を図っている。毎月の全体会議で、理念や目標が実践されているか振り返り、方向性を見極めてケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど行事で近隣の方をお誘いし交流を行っている。近くの小中学生が定期的に訪問したり、「職場体験」受け入れ。ボランティアで活花教室も毎月開催。庭を開放し近所の方も楽しまれている。	町内の清掃活動には職員が参加している。事業所の夏祭りでは近隣にポスティングして開催を知らせ、野外テントの借用や設置も町内会の参加協力を頂き、元気っ子クラブの子供達や家族も参加して賑わいを見せている。活花教室のボランティアや中・高校生の職業体験等の訪問を受け、多世代との交流が良い刺激となり、笑顔を紡ぐアクティブな暮らしに繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	発信はしているが、受け入れてくださる方もいれば、理解が不十分と思われる事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、開催している。地域包括支援センター職員・ご家族様と意見交換やアドバイスをいただき改善できる事は行っている。ご家族様や近隣の方をお誘いしているが参加は少なく課題。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、家族、職員などが参加し2か月毎に開催している。利用者の状況や事業所の活動報告、事故やヒヤリハットの内容を報告し、様々な課題について話し合い、意見や提案は運営に反映させているが、地域住民の参加は得られていない。	地域の方に夏祭りや敬老会、クリスマス会などの行事を早めに案内して参加に結び付け、関わりを深めたい考えを示しているため、運営推進会議への参加にも繋げ、サービスの向上や地域還元に事業所が一役担う事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と情報収集や確認を行い関係を築いている。	集団指導や管理者研修会に参加し、情報の共有を図っている。実地指導の際には、課題に向け具体的な指導、助言を得ている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議で事業所の実情を理解頂き、直面している課題解決に向け支援を得ており協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアから数名で身体拘束委員会を作り、毎月話し合いや知っておきたい事を調べ、全体会議で皆で共有し取り組んでいる。	身体拘束を行わないケアに向けた指針を整備し、虐待・身体拘束防止委員会を毎月開催している。法人研修や外部研修、伝達研修も重ね、身体拘束の弊害について職員全員が理解を深めている。特に言葉の拘束について、職員間で気をつけ注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記に同じ。身体の虐待だけでなく普段の話しかけにも虐待になることを皆で共有し、お互い確認しながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会がなかったり、理解できていない職員も多く、各自で学ぶよう声かけや勉強会を行うなど必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を読み合わせ、左記の事はしっかり行えていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時に、意見や要望があれば傾聴し、話し合いや改善を行っている。運営推進会で話し合う事もある。	発言出来る利用者から、買い物や美容院への外出希望が出され、職員は都度対応している。コロナ禍で面談時間を短縮しているが、家族等との関係は良好で、訪問時や電話で意向の汲み取りに努めている。2か月毎に発行する個別の便りには写真と日々の様子を伝え、ブログも公開して情報を伝達し安心に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やフロア会議で話し合いや意見交換を行っている。毎月の個人面談で意見がある職員には別時間で機会を設けている。	法人はキャリアパス制度を導入し、職員が目標に向けて意欲的に取り組める環境作りに努めている。成長シートを用いて毎月個人面談を行い、職員の意見や情報を取り入れ話し合い、就労環境整備に反映させている。全体会議やフロア会議では意思疎通が図れ、職員の意見を吸い上げる場として活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	成長シートを使い、自己成長・向上心が持てるよう実践している。また、労働状況で困難があれば都度、業務改善を行ったりなるべく時間内で仕事が終われるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が、興味あるテーマを選び外部研修を受けている。その後、職場で伝達研修を行い共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者は交流機会があるが、職員は研修や系列施設職員と交流を行うくらい。積極的に交流や情報交換ができるよう努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始前の情報収集し職員で共有している。ご本人の話を傾聴したり、関わりを多く持ち信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時に積極的に話しかけをしたり、話を傾聴しながらなるべく要望に応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって、どのような支援が必要かを職員皆で様子観察・把握し情報共有しながら話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	遊楽館は職員の事を「パートナー」と記している。そのように良い関係で過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のために職員とご家族様が同じ思いでご本人を支えていけるよう関わりを持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援には努めているが、ご高齢の方が多く疎遠の方が多い状態である。	高齢化や重度化に伴い、馴染みの人や場所への要望が少なくなっている。行きつけの店での買い物や美容室には職員が対応している。携帯電話を所持している利用者には、繋がりを大切に思いサポートしている。遠縁から手紙が届いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎身体操やレクリエーションを行ったり、職員が間に入りながら会話する場を作るなど、個々の様子に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から関係や相談があれば快く受け入れ応じているが、ほとんどの方は関係がない状態。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な方が多いが、なるべく表情で察したり気持ちを汲み取るように心がけている。毎月、カンファレンスを行い話し合いをしている。	本人の生活歴を考慮し普段の会話や生活の様子から、その人らしさを把握し、生活を支えるためのアセスメントに活かしている。希望の表出が困難な場合には、行動や仕草、表情等を見逃さず、訴えに関心を払い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	殆どの方はできているが、把握しきれていない方もいるので努力していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を見逃さないよう、職員同士情報共有しながら行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月末にモニタリングを行ったり、カンファレンス時に意見交換を行っている。それに基づき、担当者が介護計画を作成している。	毎月のモニタリングを基に、担当職員は利用者、家族の意向を考慮して課題を見極め、達成可能な具体的なケアプラン原案を提案し、フロア会議で検討している。最終確認は計画作成者が行い、家族に説明している。定期見直しは3～6ヵ月毎に行われ、状態変化時は都度見直しをして介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・タブレット入力・申し送りノートを活用し、情報共有行っている。おおむねできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々様子や状況に応じて話し合いや対応を行っている。迅速に行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活を楽しめるよう努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある方には支援している。	入居時に本人、家族の意向を尊重して主治医を決めて頂いている。現在は、全利用者が協力医を主治医とし、月2回の往診を受けており、協力歯科も週1回の往診対応である。専門医への受診は家族と職員で支援し、週1回の訪問看護で適切な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいないため、訪問看護師が週に一度来訪、必要に応じてすぐ来て下さる。往診医・看護師と情報共有し入居者様の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	病院側・ご家族様と連絡を取りながら、入居者様が早くホームに戻るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員で未経験者が多いため、研修に参加したりマニュアル作成はしている。重度化した方には、医療・ご家族様と連携を取っている。	重度化、終末期のあり方に関しては、入居時に指針を説明し、事業所で出来る事、出来ない事を明確に了承を得ている。重度化に伴い、医療関係者と家族、職員との話し合いを重ね、本人、家族の希望を尊重した支援に向け体制を整えている。看取り経験のある副ホーム長の下、職員はマニュアルを基本に研修に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応については情報共有はしているが、定期的な訓練は行っていない。検討していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練やマニュアル検討を行っている。備品や食料は準備している。	昨年は夜想定火災避難訓練を消防署指導の下に1回、地震避難訓練を1回、水害避難のシミュレーションを1回実施しているが地域住民の参加協力が得られていない。災害用備蓄品は確保している。	コロナ禍が落ち着いた時点で、水害時の垂直移動訓練を始めとし、様々な災害時に於ける訓練を重ねる事を期待したい。また、地域住民との連携、具体的な支援体制の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているが不十分なところもあり、改善できることは行って行く。	接遇マナーを学び、利用者とは馴染みの関係であっても、言葉遣いに配慮し、人格の尊重やプライバシーの確保について常に注意を払い対応に努めている。同性介助の要望に応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる雰囲気作りを心がけている。自己決定が困難な方には、気持ちを汲み取るよう気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動かないよう努めているが、どうしても希望に添えない事もあり、改善できるところはしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の決定などできる方はしていただいている。身だしなみには気を配り、おしゃれもできる限り行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備できる入居者様は少ないが、できる事はしていただいている。食事の楽しみが持てるよう、おいしくできたてを提供するようにしている。	手作り料理を基本に、畑の野菜も取り入れ乍ら、出来立ての美味しさを味わって貰っている。季節行事や誕生日での特別食では利用者の要望に応え、お好み焼きなどのおやつ作りは一緒に楽しんでいる。刻みやミキサー食も彩りに気を配り食欲に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者様の水分量把握・確保は行っている。好みや摂取量は個々に応じ、食事が困難な方はきざみやミキサー対応など行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。その方に応じて、一部介助させていただいている。毎月、歯科衛生士に磨き方など指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄間隔を把握して排泄困難な方には声がけや誘導を行っている。自立の方は継続できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、自立排泄が困難な場合は、便座に座る事で排泄への意識付けに繋がる様に、声掛けやさり気ない誘導でトイレでの排泄を支援している。自立者には、ドア越しの見守りで羞恥心に配慮し、重度の場合はベット上でのオムツ交換を行っている。排泄用品は本人の状況に応じて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要分の水分摂取や運動などで予防は行っているが、便秘が続く方は往診医・訪問看護師と連携を取り、指示を仰ぎながら取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しく入浴ができるよう、声がけや支援を行っている。入りたくない日が続いたり職員体制によりこちらの都合で入浴していただく事もあるが、ご本人の希望に応えるよう努めている。	入浴は週2回を目安に、浴槽の湯は毎回入れ替えて、湯加減も個々の好みに合わせ、満足感を得られるよう努めている。同性介助、2人介助、シャワー浴、足浴等を取り入れ、入浴中はゆったりとリラックス出来るような関わりを心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の様子や状態に応じて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り、職員全員で気をつけながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを工夫したり、できる限りお手伝いをお願いし、役割を持ち生き生きと生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば支援できるよう努めている。外出希望される方がほとんどいなく、天気の良い日・暖かい日は庭や近くを散歩したり、5～10月頃までご家族様の協力を得ながら、毎月外出レクリエーションを実施している。	例年では毎月外出レクを実施し、円山動物園、滝野霊園、樹芸センター、由仁ガーデン等に出かけ外食も楽しんでいる。現在はコロナ禍で遠出は難しいが、近隣公園への散歩や庭の花壇や畑の鑑賞などで心を癒し、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理できない方は、ご家族様の希望もありお金を所持している方は少ない。管理できる方は所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。ご自分で携帯電話を持っている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すよう工夫したり、清潔には気をつけている。トイレ・浴室はわかりやすいよう表示し、歩行される所は広くするなど安全面に気をつけている。明るさや温度調整もその時々に応じて行うよう気をつけている。	玄関前には手入れが行き届いた美しい花壇を造設し、広々とした玄関には椅子とテーブルを置き、花やぬいぐるみが飾られている。玄関踊り場には暖炉のインテリアが印象的で、温かみを感じられる空間となっている。リビングには和室やベランダが設置され広々としており、七夕時には利用者の想いを書いた短冊や七夕飾りを笹の葉につるし、季節感を施している。各ユニットにトイレ3カ所、洗面台6カ所を配置し、自立に向けた配慮が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配置換えをしたり、工夫をしながら居心地よい場所作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、入居者様・ご家族様にお任せし馴染みのあるものを使用している。居室内が乱雑になったり、地震で倒れそうなものは相談し、改善できることはしている。	居室には収納棚が設置され、ベットやカーテンが備えられている。仏壇、タンス、ソファ、テーブル、冷蔵庫、湯飲みセットなど、生活に欠かせない品を用意し、転倒防止の突っ張り棒を備え、動線に配慮して安全を確保している。趣味の品や道具も手元に置いて自分の部屋を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止医委員会を中心に、職員皆が気になるところは情報発信し、検討や改善しながら安全を意識している。上記でも述べたように災害などで危険や不安がないよう努めている。		